

航貨総第104号

2019年9月26日

正会員・準会員・賛助会員 各位

一般社団法人 航空貨物運送協会
総合部会 空港対策委員会

関西国際空港における災害対策の進捗状況について
(空港対策委員会委員による視察報告)

2019年8月26日、空港対策委員会委員（望月委員長・井上副委員長）が、関西国際空港の国際貨物地区における防災対策の進捗状況を視察するため、関西エアポート社を訪問しました。

2018年9月の台風21号では、越波による冠水・浸水により濡損被害の他、電源喪失により機能が麻痺する事態となりました。関西国際空港ではBCPの観点から、これまでに、以下の対策が実施済又は計画されていることを確認しました。

- ・越波を防ぐための、護岸の嵩上げや消波ブロックの積み増し
 - ・万一浸水した場合に被害を抑制するための、止水板の設置、止水シートの備蓄、可搬式排水ポンプ、排水ポンプ車の導入
 - ・電源確保の観点から、電源施設の地上化、電気制御盤の嵩上げ、水密扉の設置等
 - ・国際貨物地区の対処拠点としてエリアオペレーションセンターを設置
- 第5国際貨物代理店ビルに7名体制で常設され、24時間体制で防災対応を実施

対策の総事業費は541億円、2022年度末までに全ての対策、工事が完了する予定。
詳細な資料は会員専用ページの協会からのお知らせに掲載されていますのでご覧ください。また、関西エアポート社のホームページにお知らせのニュースリリースにも関連資料が掲載されていますのであわせてご覧ください。

以上